



見どころ案内ツアー開始

まほろんでは、開館年より各年度ごとにボランティアを募集しており、本年度は52名の方がボランティア登録しています。

活動は、まほろん行事や資料整理のお手伝い、古代畑の管理などの他に、自主的な活動として年1回のボランティアイベント（本年度は7月20日実施）、月1回の「まほろんオリエンテーリング」（第1土曜日）等の行事の企画開催やアンギン編みや土器づくりの技術を学ぶ自主研修などを実施してきました。

さらに本年度からは、新規自主活動として、「見どころ案内ツアー」（6月から第3日曜日）や「植物観察ツアー」（7月から11月までの第2日曜日）を月1回の予定で開始しました。

「見どころ案内ツアー」は、まほろん内外の展示物についてポイントを絞って、午前11時と午後1時30分の2回開催します。開始当日の6月23日には、午前中は丁度見学時間が重なった団体を、午後にご家族でいらした方を連れて、当館ボランティアが館内外の説明を行いました。参加した子供さんにはもちろんまほろんオリジナルシールを差し上げています。

「植物観察ツアー」は、体験活動広場に生えている各種の植物について、ボランティアが来館者のみなさんと一緒に回って解説する予定です。

まだ、開始したばかりですが、ボランティア自主活動が開催される日に御来館した折には、是非ご参加ください。

体験学習

今年も盛況

4月から6月までに当館を利用してくださった方々は約9,700人になります。我々職員一同嬉しい悲鳴をあげている毎日です。

さて、まほろんでは種々の体験活動ができますが、人気のトップは、ダントツで勾玉です。老若男女、たくさんの方々が楽しんでいってくださいます。初めはイメージがわからず苦心される方や、あまり興味を示していないように見える方もいます。しかし、次第に形になってくると、一喜一憂しながら目をキラキラさせてきます。最後の仕上げ、磨きの段階になると「これでどうですか?」「これでどう?」と自信に満ちあふれた言葉が返ってくるようになります。世界でたった一つの自分が製作した勾玉という意識が高まってくるのでしょうか。

以前ちょっとしたエピソードがありました。おもむろにすっと立ち上がったかと思うと、辺りをキョロキョロ見渡し、ゴムべらを持ち出して勾玉を磨き始めました。その方は「これで磨いたらもっとツルツルするべえ。」とおっしゃいながら一生けん命みがきをかけていました。妥協を許さない職人さんといった雰囲気、とても微笑ましい光景でした。また、ある方々からは、首にかけた勾玉を見ながら「もっと艶を出すにはどうすればいいんですかね。」と聞いてこられたので、「皮で磨くといいですよ。」と皮が置いてある場所に案内し、磨いていると別の方から「家には皮がねえんなあ。」とおっしゃったので「車を洗う時に使うセーム皮というのがあってそれはなかなかいいですよ。」とアドバイスすると、うんうんと頷きながらも「息子に聞いてみっか。」という半信半疑の様子だったので「ダスキンなんかもいいですよ。」と言ったら、「おー」と目を大きくして大歓声が沸き上がりまし



<勾玉の材料>

ボランティアイベント

「まほろん2周年だよ！ボランティア2003」

昨年、大変ご好評いただいたボランティアイベントを今年の夏もやります！

縄文人バトル、槍投げ選手権、草履飛ばし大会、タガ回し競走、巨大シャボン玉飛ばし、昔のおもちゃで遊ぼう、子供おみこし、竪穴住居で昔話や紙芝居を聞く催しなどを予定しています。ぜひご参加ください。

日 時／平成 15 年 7 月 20 日 (日) 9:30 ~ 15:00

場 所／まほろん体験広場

その他／参加費無料、事前申込みは必要ありません。

主 催／まほろんボランティア



<勾玉ができたよ>

た。「んじゃったら毎日テレビを見ながらでも出来るない。」と家に帰ってからでもさらによくしようとする姿に感動しました。

作り上げた勾玉に満足して帰っていただけるので、我々職員一同も本当に幸せな一時を過ごすことが出来ます。ありがとうございます。そしてまたのお越しをお持ちいたしております。



まほろんで行っている勾玉の作り方を紹介したいと思います。滑石(かっせき)というとても柔らかい石で、35×35×12mmです。紙ヤスリは水の中で使える耐水ペーパーで80・240・1000番の3種類を使います。もう少し大きいサイズもあります。(こちらは耐水ペーパーではなく普通の紙ヤスリです。)

- 1 石に勾玉のデザインを出来るだけ大きくかく
- 2 キリで紐を通す穴をあける(削る分を考えて外側すぎないように)
- 3 耐水ペーパーでデザインしたところまで削る。まがりの部分は、棒等に紙ヤスリを巻き付けて削る
- 4 面取り(角をとること)をする※ここまで80番
- 5 240番に替えてさらに丸みをつける
- 6 形が整ったら1000番で仕上げをする
- 7 (必要に応じて皮で磨く、色を染める)
- 8 紐を通して出来上がり



<昨年行われた槍投げ>

まほろん夏のてんじ

よみがえり

—F I Tの昔むかし—

期 間／7月19日(土)～9月7日(日)

今回の展示は、F(ふくしま)・I(いばらき)・T(とちぎ)地域の昔のお墓を探検してみようという企画です。この地に消えていった人々の”生と死”に寄せた思いを、お墓や出土品から探ってみませんか？

よみがえる八溝山

F I Tの中心、八溝山から”金”がたくさんとれたところをふり返ってみましょう。

縄文からのよみがえり

F I T地域の縄文人の宝物はヒスイの玉。春に新緑が「よみがえる」色です。

展示資料：福島県大畑貝塚の
縄文人骨・矢祭町我
満平遺跡の大珠他

弥生からのよみがえり

壺につけられた顔はいのちの「よみがえり」を司る神の姿かも知れません。

展示資料：茨城県大宮町小野天神前遺跡の人面の付いた弥生土器他



<河東町駒板新田横穴からみつかった頭骨>

古墳からのよみがえり

古墳は黄泉の国への入り口です。黄泉の国へは、ふしぎな鳥が案内します。

展示資料：福島県泉崎村原山一号墳の鳥形埴輪他

仏のもとでのよみがえり

仏教の広まりとともに人々は仏のもとでの「よみがえり」を願い、なきがらを火葬するようになります。

展示資料：栃木県国分寺町下野国分寺跡の増長天像他
<記念座談会>

期 日／7月27日(日) 13:00～15:00

場 所／当館講堂

テーマ／考古学が解き明かす福島・茨城・栃木の交流

出席者／福島県考古学会長 鈴木 啓氏

茨城県考古学会長 諸星政得氏

栃木県考古学会長 埴 静夫氏

コーディネーター／当館館長 藤本 強

シリーズ復元展示

鋳型からみた鉄製品の復元 その2

前回、遺跡から出土した鋳型にシリコンを流し込み、製品の模型を復元したお話をしました。今回は、実際に鋳型に鉄を流し込み、できあがった鋳物製品についてお話しします。

右下の写真が、古代の鋳型より復元した鉄製品(獣脚付き容器)です。鋳型は、今から約1,200年前(平安時代9世紀頃)のものであり、福島県浜通り地方北部の相馬市山田A遺跡から出土しました。

写真で解りますように、容器に3本の獣脚(獣の顔をつけた脚)が付いています。容器は、口の部分が僅かに張り出していますが、全体的に浅いボウルのような形をしています。その大きさは、直径20cmほど、深さ9cmほどです。獣脚は、長さ14.5cm、厚さは最大で3.5cmです。

さて、実際に、製作に取りかかってみると、脚の部分と容器部分の接着方法が問題となりました。平安時代において、どのような方法で鉄製の容器と獣脚を接着したのでしょうか。大雑把に言って、古代日本において、金属の接着方法として、以下の三種の方法が存在していたと考えられています(註1)。

・機械的接合法…鋸を使用したり、“かしめ(棒の両端をつぶして止める方法)”で止める方法

・科学的接合法…有機系の接着剤(漆や“ニカワ”

など)で貼り合わせる方法

・金属学的接合法…接合面に何らかの金属を用い、熱して一体化する方法(鍛接や銀鑲などを使用した鑲接技法、あるいは鋳掛け法など)

結論から先にお話ししますと、今回は、いずれの接合法も採用しませんでした。どのような方法で、獣脚が付いた容器が完成したのかは、次回お話しいたします。

註1 1995 村上 隆『古代金工における金属接合技術—銀鑲(ろう)による「鑲接」技法を中心に—』古文化財論叢Ⅱ 同朋舎出版



<出来上がった鉄製品(獣脚付き容器)>

研修課より

第1回「体験学習支援コース」

5月17日（土）と18日（日）の両日、第1回目のまほろん研修「体験学習支援コース」（昨年度「体験学習研修」）を実施しました。

今回の研修は、古代に使われた道具を作ってもらい、その作り方や使い方を体験学習の授業などに応用してもらうことを目的にしています。1日目は、ホームセンターなどで手軽に入手できる材料で、古代の発火具「まいぎり」の作り方を研修しました。2日目は、縄文時代に行われていた布編み（アンギン編み）の編み台（アンギン台）を段ボールを切って作り、布の編み方も研修しました。

1回目の研修には、市町村の博物館や埋蔵文化財調査事業団にお勤めの女性3名が参加しました。みなさんこの夏の展示会やイベントで「体験コーナー」を担当なさったり、博物館の「出前授業」などでも「火おこし」の要望があるようで、これらの道具をそろえる

総務管理課より

まほろんショップの人気商品

まほろんショップでは、教育普及活動の一環として、文化財関係オリジナルグッズ等の販売を行っています。

人気No.1はポストカード（80円 税別）です。8種類ありますが、各時代ごとの子供のキャラクターを絵柄にした物が人気です。

No.2はスタンプ（300円 税別）です。さまざまな種類の物がありますが、土器や土偶をモチーフにした物が人気です。

No.3は、メモパッド（250円 税別）です。4種類ありますが、これも子供のキャラクター物が人気です。

また、オリジナルグッズのほかにも常設展示図録や過去に開催した企画展の展示図録、体験学習で使用している「勾玉づくりセット」（小：300円、大：400円 どちらも税込み）を販売しています。

まほろんにお越しの際には、ぜひお立ち寄りください。

まほろんからのお知らせ

体験発掘ツアー参加者募集中



9月7日（日）に実施予定の体験発掘ツアーの参加者を募集しています。（白河館から貸切バスを運行予定、参加費無料）今年、会津高田町の油田遺跡での実施を予定しています。

是非、ご応募ください。

期 日	講演会・実技講座・イベント	内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費等
9月7日（日）	体験発掘ツアー	調査中の現場で発掘を体験します	8月22日	25名	小学生以上	無料
9月20・21日（土・日）	弥生土器づくり	小型の弥生土器を2日かけて作ります	9月5日	60名	（4年生以下は保護者同伴）	200円
10月18日（土）	石庖丁づくり	弥生時代の稲刈り具の石庖丁を作ります	10月3日	60名		50円



＜手作りまいぎりで火おこしです。このあとまもなく火がおきました。＞

ことに苦慮なさっているそうです。

「体験学習支援コース」は、今後以下の日程で、今回は夏休み中の3日間開講します。

2回目 7月23～25日 3回目 11月29・30日
みなさまのご応募をお待ち申し上げます。



＜ポストカード＞

＜新商品ラインナップ＞

体験活動室では8月19日から8月31日まで体験学習の新メニューとして「管玉づくり」を行います。管玉とは円筒形の竹管状の玉のことです。まほろんショップでは、それにともない「管玉づくりセット」（3個入り 400円 税込み）の販売を行う予定です。管玉だけでもよし、また勾玉と管玉を組み合わせてもよし、あなただけのオリジナルアクセサリを作ってみませんか？

ご利用案内

開館時間 9:30～17:00（入館は16:30まで）
休 館 日 月曜日（月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館）、国民の祝日の翌日（土曜日・日曜日にあたる場合は開館）
入 館 料 無料（体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。）
そ の 他 団体（20名以上）でご利用の場合は、事前にご予約ください。